

担い手確保・育成

農業を支える担い手の確保・育成を目的に、農業の基礎知識や実践技術を学ぶことができる農業塾や就農相談などを行っています。

農業塾(野菜コース)

- 期間 4月下旬から1年間(月2~4回程度)
- 場所 新郷地内農業塾ほ場等
- 定員 10人(選考あり)
- 対象 市内で職業として野菜作りをしていく予定の人
- 費用 年間2万円
- 募集期間 2~3月に募集を予定しています。詳細は広報紙やホームページでお知らせします。



農業塾(梨コース)

- 期間 11月中旬から1年間(月2~3回程度)
- 場所 東平地内ほ場
- 定員 若干名(選考あり)
- 対象 市内で職業として梨作りをしていく予定の人
- 費用 無料
- 募集期間 今年度の募集は締め切りました。来年度の募集は令和4年9月ごろを予定しています。



就農相談

農業の担い手確保、耕作放棄地の増加対策として市農業公社と協力し、市内で新たに農業を始めたい人からの相談を随時受け付けています。また、2月ごろに市内で就農相談会も実施しています。国や県が主催する相談会にも積極的に参加し、市内での就農を紹介しています。新規就農者にも農業の経営安定化と定着を図るため、様々な支援を行っています。



地産地消の推進

生産者と消費者が近いという利点を生かし、農業者の支援を行っています。

ひがしまつやマルシェ

若手農業者団体「東松山農業者会NEXT」のメンバーを中心に「ひがしまつやマルシェ@市役所夕市」を定期的に開催しています。また、不定期に市内で開催しているものについては広報紙、ホームページなどでご案内します。

ひがしまつやマルシェ@市役所夕市
 日時 原則毎月第3金曜日 午後3時~5時15分
 場所 市役所本庁舎1階ロビー



ひがしまつや
マルシェ

農業の安定的な発展を目指して



農業塾(野菜コース)での様子

現在、市では農業の安定的な発展を目指して

「担い手確保・育成」

「地産地消の推進」

「生産基盤の整備」

「ブランド化と収益性の向上」

に取り組んでいます。今回はそれぞれの取組を紹介します。

加えて、市内農業者に農業の魅力、農業者から見た東松山市の魅力について語っていただきました。

また、農業を身近に感じてもらうための「農とふれあうテーマパーク」東松山市農林公園についてもお知らせします。

この特集をきっかけに東松山市の農業に興味を持っていただけたら幸いです。

特集についての問合せ

農政課 ☎21-1400
☎23-7700

市内農業者の声



おおしお けんじ
大塩 健二さん

私は「東松山市戦略作物研究会※1」のメンバーとして、市外から東松山市のほ場まで通い、1年を通じて様々な野菜を栽培しています。

私にとっての農業の魅力は、豊かな自然と関わること、比較的精神的ストレスが少なく働けるということです。また、仕事をコントロールできるため、都内に通勤する妻と一緒に家庭を切り盛りしています。

東松山市で就農してみた感想は、他の自治体に比べて、農業方針に厳しい縛りがなく、自由に農業できる環境だと思います。また農業塾、就農相談など、就農にあたってのサポート体制が優れていると思います。

今後、多くの人に東松山市の農業に注目してもらいたいです。

※1 消費者ニーズの高い農産物を選定して販路確保や低コスト栽培を図る研究会



まつやま けんご
松山 健吾さん

私は「東松山農業者会NEXT※2」に所属していて、1年を通じて直売を中心とした梨を育てています。育てている品種は幸水、豊水、彩玉、新高などです。農業塾を受講後、関係機関のサポートを受け、令和元年に就農しました。

私にとっての農業の魅力は、自分のペースで自分の方法で営むことができること。また、人間関係のストレスが少ないことも良いと思っています。

東松山市は、ひょうの被害が少なく、比較的安定して梨を育てることができるとも良い場所だと実感しています。

これからも東松山市で作った梨をより多くの人に届けたいと思います。

※2 市内で農業を営んでいる若手農業者の会

農とふれあえる東松山市農林公園

農業、観光の拠点として令和元年8月にリニューアルオープンしました。

再整備した市農林公園には、イチゴの摘み取り体験ができる「温室」や市内農産物を活用した食事等を提供する「丘の上のカフェHeuvel(フーヴェル)」、野菜の収穫体験ができる「体験研修農場」、子どもが楽しめる「大型遊具」などがあります。

また、定期的に野菜の収穫体験や季節の花を楽しむイベントなどを開催しています。



市農林公園
ホームページ

丘の上のカフェHeuvel(フーヴェル)



モーニングメニュー、ランチメニュー、デザートなどを用意しています。メニューはホームページをご確認ください。



秋の限定メニュー
梨たっぷりパフェ 700円



数量限定メニュー
削りイチゴ(小) 300円

野菜の収穫体験

定期的に野菜の収穫体験を行っています。11月には「サトイモの収穫体験」、12月には「ロマネスコの収穫体験」を広報紙、ホームページなどでお知らせする予定です。



イチゴの摘み取り体験

12月中旬から5月下旬まで、高度環境制御型温室で栽培されたイチゴの摘み取り体験をお楽しみいただけます。詳細は広報紙、ホームページなどでお知らせします。



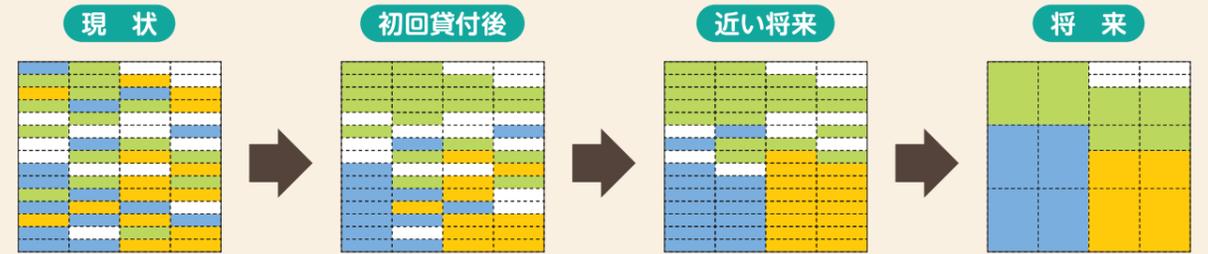
生産基盤の整備

農地中間管理事業・農地区画拡大事業

農業の生産性向上を図るとともに、農業者の高齢化による担い手不足対策のため関係機関と連携し、担い手の農地の集積・集約化を推進しています。

農地中間管理事業による農地利用の変遷(イメージ)

一度受け手に農地を貸し付けた後も、継続的に農地の借り入れを行いながら、受け手間の耕作地の交換を進め、より使いやすい形で農地を利用できるよう支援していきます。



出し手(農地所有者)のメリット

- 契約に基づいた賃料が確実に入る。
- 契約期間満了後には農地は確実に戻ってくる。
- 受け手から農地を返されても安心です。
 - 農地中間管理機構は、出し手に代わり市町村及び農業委員会等と連携して、次の受け手を探します。
 - その間、最長2年にわたり機構が農地の管理を行い、契約に基づき賃料をお支払いします。
- 相続があっても次の世代が困らない。
 - 所有者には、農地を良好な状態に保つ責任があります。農地を荒らしたままにすると固定資産税の課税が強化される場合があります。
 - 最初は出し手の意向を尊重して受け手を選びますが、その後は、受け手が変わることがあります。

預けて
安心

受け手(耕作者)のメリット

- 農地を集めやすくなる。
- 農地の集約化(団地化)がしやすくなり、労力・コスト軽減につながる。
 - 受け手が変わるときに出し手の同意は不要となっています。また、補助金を活用した利用条件の改善(畦畔除去など)が可能になります。
- 長く継続して借りられる。
 - 10年以上の貸借期間の場合、機構集積協力金の交付対象になります。
- 賃料の支払いが農地中間管理機構に一本化されるので煩雑な支払い手続きがなくなる。
- 契約の更新手続きは農地中間管理機構が行うので、相対での調整がいらない。

コスト
低減
経営に
専念

参考：公益社団法人 埼玉県農林公社

ブランド化と収益性の向上

収益性の高い農業を実現するための取組を行っています。

戦略作物と加工品

特産品である梨・栗の産地継続に向けた取組を行うとともに白いトモロコシ「ハニーホワイト」等を戦略作物として位置づけ、安定した栽培と市場出荷できる体制づくりのための支援を行っています。また、野菜の契約栽培による安定した出荷体制づくりを支援しています。

農畜産物の付加価値を高めるため、関係機関と連携し、市内産農畜産物を使用した加工品の開発を行うとともに6次産業化に取り組む生産者を支援しています。生産された加工品は各種イベントでの販売や、パンフレットへの掲載等で消費者に魅力を伝えています。



加工品